

# 論文内容要旨

論文題目 3年課程看護師養成所看護教員が臨地実習指導で行う  
教育実践因子構造モデル

教育・研究領域：安全・管理支援看護学  
氏 名：高橋 公子

## 【内容要旨】

3年課程看護師養成所の看護教員が意識的に取り組む教育実践の因子構造を探索し、因子構造モデルを明らかにすることを目的に研究を行った。3年課程看護師養成所で指導的立場にある看護教員の面接から抽出した項目と文献を検討し作成した「臨地実習指導で行う教育実践に関する項目」を用いて自記式質問紙調査を行った。質問項目は全て集計し、項目分析を行った後、探索的因子分析、確認的因子分析を行いモデルの信頼性妥当性を確認した。因子分析の結果より看護教員が臨地実習指導で行う教育実践は、【臨地指導者との連携】【看護実践の機会の提供】【思考過程の指導】【学習への動機づけ】【受け持ち患者の受ける医療行為に対する知識の確認】の5因子26項目が抽出され、確認的因子分析で検証した結果、信頼性妥当性のあるモデルであることが確認できた。

平成 29 年 1 月 20 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

# 学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 高橋 公子

論文題名： 3年課程看護師養成所看護教員が臨地実習指導で行う  
教育実践因子構造モデル

審査委員：主審査委員 小林 淳子



副審査委員 古瀬 みどり



副審査委員 布施 淳子



審査終了日：平成 29 年 1 月 18 日

## 【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

3年課程看護師養成所の卒業生は国家試験合格者の45%(2016年)を占め、実践現場を支えている。一方、3年課程看護師養成所の看護教員は、臨地実習指導において学生の質、職場環境、教員自身の指導力等に課題を抱えており、研修や自己研鑽の限界が大きく高い離職率が指摘されている。先行研究では臨地実習指導に関する評価尺度が複数開発されているが、いずれも看護教員の臨地実習指導力の向上につながる具体的な行動の提示に至っていないのが現状である。

本研究は、3年課程看護師養成所看護教員の臨地実習指導力向上のために、臨地実習指導で行う教育実践の因子構造モデルを明らかにすることを目的としている。指導的立場にある看護教員へのインタビューに基づき臨地実習指導で行う教育実践に関する項目を精選して質問紙を構成し、全国の3年課程看護師養成所看護教員への悉皆調査により因子構造モデルを構築して信頼性、妥当性を検証している。審査では、主に本研究の意義、用語・文言の整合性、表を含む結果の表記等について指摘があり討議された。審査委員の指摘に対しては論述の追加がなされ、加筆修正されたことを確認している。

本研究により、3年課程看護師養成所看護教員の臨地実習指導で行う教育実践の因子構造モデルが初めて確認された。本モデルは看護教員が自身の臨地実習指導における教育実践を行動レベルで把握できると同時に、研修や自己研鑽の計画、評価への活用も期待できる。以上により、本論文は看護学の博士論文に相応しいと判定し合格とする。